彙　報

二〇一六年四月より
二〇一七年三月まで

研究狀況（二〇一六年度）

東方學研究部

東アジア近世の地域をつなぐ關係と媒介者

班長　岩井茂樹

二〇一五年四月から二〇一六年一月の間、課題についての研究報告をおこなう研究會を計一二回開催した。このほか、研究班のサブグループによる『道咸宦海見聞錄』の會讀をおこなった（計一三回）。これは一九世紀に翰林官おおび地方官僚を歷任した張集馨（一八〇〇年～一八七九年）が遺した自編年譜および日記からなる史料である。會讀にさいしては電子テキストを作成し、その校訂作業を併せておこなっている。

四月一三日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　岩本眞利繪　京都大學大學院文學研究科博士後期課程
　　發表者　宋　宇航　京都大學大學院文學研究科修士課程
四月二七日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　張　子康　京都大學大學院文學研究科修士課程
五月一〇日　明朝による無祀鬼神祭祀政策―祭厲制度と蔣山法會　發表者　濱野亮介　大谷大學
五月一八日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　城地　孝　同志社大學文學部
　　發表者　望月直人　現代中國研究センター產學連携研究員・非常勤
五月三一日　「誣告」問題と情理秩序―同治朝巴縣の「租佃關係」に關する誣告案件を例にして　發表者　凌　鵬　京都大學大學院文學研究科博士後期課程
六月　一日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　岩本眞利繪　京都大學大學院文學研究科博士後期課程
　　發表者　宋　宇航　京都大學大學院文學研究科博士後期課程
六月一四日　大禮の議の公私論―明代後期における皇帝の正當性に關する一考察―　發表者　岩本眞利繪　京都大學大學院文學研究科博士後期課程
六月一五日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　後藤　隆　京都大學大學院文學研究科修士課程
　　發表者　張　子康　京都大學大學院文學研究科修士課程
六月二九日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　小野達哉　文學研究科教務補佐員・非常勤
　　發表者　凌　鵬　京都大學大學院文學研究科博士後期課程
七月一二日　元明清公文書の引用終端語再考　發表者　岩井茂樹　人文科學研究所
七月一三日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　城地　孝　同志社大學文學部
　　發表者　望月直人

現代中國研究センター
産學連携研究員・非常勤

七月二六日　柳得恭手稿本『燕臺再游錄』から見た册封使李鼎元の琉球認識と清・琉球・日本・朝鮮四國の國際關係　發表者　木村可奈子
人文科學研究所
教務補佐員・非常勤

七月二七日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　岩本眞利繪
京都大學大學院文學研究科
博士後期課程

發表者　後藤　隆
京都大學大學院
文學研究科修士課程

九月二八日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　城地　孝
同志社大學文學部
發表者　望月直人
現代中國研究センター
産學連携研究員・非常勤

一〇月　四日　三藩の亂時期の朝清關係と日本　發表者　木村可奈子
人文科學研究所
教務補佐員・非常勤

一〇月二五日　沈惟敬再考　發表者　城地　孝
同志社大學文學部

一〇月二六日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　張　子庚
京都大學文學研究科ＭＣ
發表者　梁　鎭海
人文科學研究所研究生

一一月　一日　明代後期の原理主義をめぐる一考察―桂萼の土地制度改革論とその思想的背景―
發表者　岩本眞利繪
京都大學文學研究科ＤＣ

一一月　八日　明代內閣政治史研究の現狀と課題―中國における「宰相論爭」を中心―　發表者　宋　宇航

一一月　九日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　後藤　陞
京都大學文學研究科ＭＣ
發表者　城　地孝
同志社大學文學部

一一月二二日　『經世大典』にみる元朝の對日本外交論―　發表者　植松　正
京都女子大學

一一月三〇日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　望月直人
人文科學研究所
産學連携研究員・非常勤

二月　一日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　後藤　陞
京都大學文學研究科ＭＣ
發表者　城地　孝
同志社大學文學部

二月一四日　士商文化的衝突與調和：再論清代廣告中的圖像與文字
發表者　巫　仁恕
中央研究院近代史研究所

二月一五日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　望月直人
人文科學研究所
産學連携研究員・非常勤

發表者　岩本眞利繪
京都大學文學研究科ＤＣ

二月二八日　琉球國の西洋船迎接體制―異國通事の役割を中心に―
發表者　張　子康
京都大學文學研究科ＭＣ
發表者　凌　鵬
京都大學文學研究科ＤＣ
發表者　張　子康
京都大學文學研究科ＭＣ

一月二四日　鑛山・市場町・「疆域截然」・一九世紀、中國・ベトナム邊境における會黨の活動について
發表者　望月直人
人文科學研究所
産學連携研究員・非常勤

會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』

二〇一七年一月一一日

京都大學文學研究科ＭＣ

三月　一日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　木村可奈子　人文科學研究所　教務補佐員・非常勤　發表者　凌　鵬　京都大學文學研究科ＤＣ

三月一五日　會讀：張集馨著『道咸宦海見聞錄』　發表者　城地　孝　同志社大學文學部　發表者　小野達哉　文學研究科教務補佐員・非常勤　班長　古勝隆一

『文史通義』研究

本年度は四月一九日に最初の研究班を開催して以來、おおむね二ヶ月に三回のペースで『文史通義』の會讀を實施した。前年度に引き續き、活潑な議論を重ねており、問題が完全に解決してない部分については、議事錄を作成し、後日あらためて檢討することができるよう記錄を保管してある。あらかじめ擔當者を決めて、會の數日前に譯注稿を各班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究班に出席する方法を採用したため、研究班では效率的に議論することができた。本研究班では『文史通義』內篇五卷を譯出することを目的としており、卷一の部分については、二〇一六年八月の時點で『東方學報』に入稿をすませ、同年一二月現在、初校を行っているところである。また卷二については、まだ譯出を終えていないが、年度內には譯注を完成させ、二〇一七年八月、『東方學報』に入稿する豫定である。

四月一九日　『文史通義』卷二「原道下」譯注、および『文史通義』卷一の譯注出版に關する打ち合わせ　『文史通義』卷二「原道下」譯注　發表者　山口智弘　二松學舍大學

一一月一五日　『文史通義』卷一の譯注出版に關する打ち合わせ　發表者　古勝隆一

五月一七日　『文史通義』卷一の譯注の最終確認　『文史通義』卷一の譯注の最終確認　發表者　古勝隆一

六月二一日　『文史通義』卷二「原學上」「原學中」譯注　『文史通義』卷二「原學上」「原學中」譯注　發表者　重田みち　京都造形藝術大學

七月　五日　『文史通義』卷二「原學中」「原學下」譯注　『文史通義』卷二「原學中」譯注　發表者　重田みち　京都造形藝術大學　『文史通義』卷二「原學下」譯注　發表者　古勝隆一

七月一九日　『文史通義』卷二「博約上」譯注　『文史通義』卷二「博約上」譯注　發表者　田　訪　京都大學大學院文學研究科

一〇月一八日　『文史通義』卷二「博約中」譯注　『文史通義』卷二「博約中」譯注　發表者　藤井律之

一一月一五日　『文史通義』卷二「博約下」譯注　『文史通義』卷二「博約下」譯注　發表者　宇佐美文理　京都大學大學院文學研究科

一二月　六日　『文史通義』卷二「言公上」譯注　『文史通義』卷二「言公上」譯注　發表者　古勝隆一

一二月二〇日　『文史通義』卷二「言公上」譯注　『文史通義』卷二「言公上」譯注　發表者　古勝隆一

二〇一七年一月一七日　『文史通義』卷二「言公中（前半）」譯注　『文史通義』卷二「言公中（前半）」譯注　發表者　內山直樹　千葉大學

二月　七日　『文史通義』卷二「言公中（後半）」譯注　『文史通義』卷二「言公中（後半）」譯注　發表者　內山直樹

千葉大學

二月二一日　『文史通義』卷二「言公下（後半）」譯注
『文史通義』卷二「言公下（後半）」譯注　發表者　竹元規人
福岡教育大學

轉換期中國における社會經濟制度

班長　村上　衞

本年度は三年計畫の初年度にあたるため、舊研究班「近現代中國における社會經濟制度の再編」から引き續いての班員と新規に加入した班員との間の學術交流の推進に力を注ぎ、計一六回の研究會を行った。毎回の參加者數は二〇名ほどで、本學文學研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な參加と發言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に廣い範圍を扱うため、中國近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中國研究者、また人文科學系だけではなく、社會科學系の經濟史研究者に參加していただいている。コメンテーターは關西に限らず、東京や金澤などの各地から報告テーマに卽した研究者に參加していただいた。いずれの報告に關しても活發に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて三時間半近くになることも多かった。なお、本研究班では定例の研究會に加えて班員による出版書の書評會も實施し（二〇一六年一〇月九日石川亮太著『近代アジア市場と朝鮮』、一一月一八日陳來幸著『近代中國の總商會制度』）、中國の「制度」をさらに多角的に研究する機會を設けた。

四月二二日　仲介者の效用：研究班を開始するにあたり　發表者　村上　衞
コメンテーター　梶谷　懷　神戸大學

五月二〇日　ダライラマ一三世の亡命と外交（一九〇四―一九一二）：W. W. Rockhillとの關係を中心に
發表者　小林亮介　京都府立大學
コメンテーター　岡本隆司　京都府立大學

六月　三日　「支那を識るの途」：橘樸の中國論の視座をめぐって
發表者　谷　雪妮　文學研究科
コメンテーター　石井知章　明治大學

六月一八日　第一次世界大戰時期における杜亞泉の西洋認識について
發表者　李ハンキョル　文學研究科
コメンテーター　小野寺史郎　埼玉大學

七月　一日　清代北京の食糧流通
發表者　堀地　明　北九州市立大學
コメンテーター　田口宏二朗　大阪大學

七月　八日　琉球王國の西洋船迎接體制
發表者　張　子康　文學研究科
世紀轉換期の香港衞生政策と潔淨：一九〇七年の調査委員會報告から考える
發表者　小堀愼悟　文學研究科
コメンテーター　渡邊美季　東京大學
コメンテーター　古泉達矢　金澤大學

七月一五日　「中法越南邊界通商章程」（一八八六年）における「交犯」條項：その成立と適用をめぐって
發表者　望月直人　青山治世
コメンテーター　亞細亞大學

一〇月一四日　中國近世の「租佃關係」に對する認識：理論的な檢討
發表者　凌　鵬　文學研究科
コメンテーター　岸本美緒　お茶の水女子大學

一〇月二八日　「日中戰爭期から太平洋戰爭期一九三七―四五年）における臺灣人の移動　發表者　巫　靚　人間・環境學研究科
コメンテーター　遠藤正敬　早稻田大學

一一月一一日　「支那通」僧侶と日中戰爭：日中佛敎提携の夢と蹉跌
　發表者　坂井田夕起子　桃山學院大學
　コメンテーター　渡邊祐子　明治學院大學

一一月二五日　一九三〇年代中國における「日蘭會商」：砂糖專賣制をめぐる攻防
　發表者　平井健介　甲南大學
　コメンテーター　籠谷直人

一二月一六日　嘉慶〝維新〟の背景とその目的：景況と漢化
　發表者　豐岡康史　信州大學
　コメンテーター　岩井茂樹

二〇一七年二月三日　清末內地通行許可書護照について：「日本臣民」に交付されたものを中心に
　發表者　篠原由華　同志社大學
　コメンテーター　陳　來幸　兵庫縣立大學

二月一七日　鎭江租界の終焉：返還交涉をめぐって
　發表者　加藤雄三　國際日本文化研究センター
　コメンテーター　久保　亨　信州大學

三月　三日　奉天同善堂に集まる人々：棲流所と游民・貧民對策條約裁判所
　發表者　上田貴子　近畿大學
　コメンテーター　蒲　豐彥　京都橘大學

三月一七日　一九二〇年代の中國地質學と日本
　發表者　武上眞理子
　コメンテーター　山田俊弘　東京大學

東アジア古典文獻コーパスの實證研究

班長　安岡孝一

平成二八年度前半は、漢文における「形容詞」を「動詞」と統合した際の副作用を研究した。具體的には、『全譯漢辭海』『簡明古漢語詞典』『文言文字典』『古漢語語法』『漢語文言語法』『漢語文言語法』などの漢文辭書・文法書において、すでに「形容詞」と分類されてしまっている形態素を「動詞」とみなす場合、素性あるいは小素性をどのように調整すべきかを研究した。平成二八年度後半は、動詞句の文型を解析するツール作成の足掛かりとして、數々の動詞句の文型を手作業で解析し、その手法をコンピュータに反映させることを考えた。この研究過程において、我々は、S式によって漢文のメタ文法（文法の文法）を記述する手法を開發した。S式による漢文のメタ文法記述を元に、そこから生成されうる漢文文法を、實際の漢文に適用していくことで、本手法の妥當性および有效性を檢證中である。

六月　三日　張貽惠『古漢語語法』（湖北人民出版社、一九五七年六月）の形容詞、劉景農『漢語文言語法』（中華書局、一九五八年八月）の形容詞、李新魁『漢語文言語法』（廣東人民出版社、一九八三年六月）の形容詞、Edwin G. Pulleyblank『Outline of Classical Chinese Grammer』（UBC Press、一九九五年）の Adjectives

六月二四日　動詞句文型解析

七月一五日　動詞句文型解析

七月三〇日　人文科學とコンピュータ第一一回研究發表會

九月　二日　Chinese Treebank 九·〇、Part-of-Speech Tagging Guidelines for Penn Treebank Project

九月三〇日　Sinica Treebank Version 三·〇

一〇月一四日　phpSyntaxTree、Chinese Text Analyzer

一一月一八日　假決めのメタ文法（S式）

一二月　二日　假決めのメタ文法（S式、ちょっと改良）

一二月一六日　假決めのメタ文法（S式）

二〇一七年一月一三日　假決め文法サンプル（十八史略）

一月二七日　品詞分類（二〇一七·一·二七版）

二月一〇日　二〇一六年度の小總括

東アジアの宗教文化と自然學　班長　武田時昌

東アジアの自然學の形成と展開において、宗教文化の果たした役割について、宇宙論や象數易の近世的展開を中心的な論題として考察した。會讀テキストとして取り上げたのは、圓通『佛國曆象編』、『卜筮元龜』であり、擔當者による譯注を檢討しながら、班員による研究發表を行った。圓通『佛國曆象編』については、梵曆、須彌山說に關する論說の未讀部分（卷五）を會讀を續行するとともに、既讀部分（卷三―四）の譯稿を再檢討した。『卜筮元龜』については、京都大學附屬圖書館所藏淸家文庫本の讀解を進めるとともに、建仁寺兩足院、天理大學圖書館及び北京國家圖書館、鎭江市圖書館が所藏する異本の合同調査を行い、諸本を比較することによって、その數理構造を考察し、京氏易や道敎、陰陽道との關連性を探った。七月には招聘客員敎授の餘欣氏（復旦大學敎授）を中心に道敎、佛敎のなかの自然學をめぐる特別講演會を開催し、九月には巴蜀文獻プロジェクトを推進する四川大學古籍研究所の研究者を招聘し、近世思想文化に關する國際ワークショップを實施した。

四月　一日　『佛國曆象編』卷三「探大藏中出梵曆立法不同十二」（續）
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學

四月二八日　『佛國曆象編』卷三「探大藏中出梵曆立法不同十二」（續）
　　發表者　小林博行　中部大學
　　『佛國曆象編』卷三「辨曆之啓閉起於印度」
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學

五月一八日　『佛國曆象編』卷三「辨曆之啓閉起於印度」（續）
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學
　　『佛國曆象編』卷三「論皇國曆首三鏡及八將神等本梵曆」
　　發表者　宮島一彥
　　同志社大學

六月一六日　『佛國曆象編』卷三「辨印度辰法」
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學
　　『佛國曆象編』卷五「擧周髀之正以徵西說不經」（續）、「論金邊山及閻浮樹可得而窺」
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學

七月　三日　アジアの宗敎と科學
　　天臺宗の佛敎天文學研究―新發見の園城寺所藏資料をめぐって
　　發表者　武田時昌
　　人文科學研究所・敎授
　　インド占星術と『宿曜經』
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學・名譽敎授
　　投龍新探―唐宋における道敎文化と博物學　發表者　餘　欣
　　復旦大學・敎授、人文科學研究所・招聘客員敎授

七月二一日　『佛國曆象編』卷五「辨南極之義」
　　發表者　Bill Mak

八月一八日　「佛僧による地球說批判」
　　發表者　淸水浩子
　　大正大學・非常勤

九月　三日　『佛國曆象編』卷五「論印度星曆說不來此上者多」
　　發表者　上田眞啓
　　文學研究科・非常勤
　　『佛國曆象編』卷五「證印度測曜宿高卑其傳甚久」
　　發表者　矢野道雄
　　京都產業大學
　　中國近世學術文化國際ワークショップ
　　日本殘存巴蜀文獻研究
　　發表者　白井　順
　　四川大學古籍整理研究所・副研究員
　　杜甫と蘇東坡の題畫詩について
　　發表者　宇佐美文理
　　京都大學文學研究科・敎授
　　朱熹『大同集』の文獻學的考察
　　發表者　尹　波
　　四川大學古籍整理研究所・所長
　　コメンテーター　三浦國雄

四川大學文化科技協同創新研發中心・教授

九月一五日　「江戸時代の儒者・中山城山の天文暦算學」
發表者　前原あやの　關西大學・非常勤

『佛國暦象編』卷五「論侍天形服翳月光之說」
發表者　清水浩子　大正大學・非常勤

一〇月一三日　『佛國暦象編』卷五「駁周覽地球妄談」
發表者　小林博行　中部大學

『佛國暦象編』卷五「眼智第五」
發表者　梅林誠爾　熊本縣立大學

一一月一七日　「西安・洛陽における天文文物に關する調査報告」
發表者　福島雅淳　神戸學院大學

『佛國暦象編』卷五「詳天眼相」
發表者　福島雅淳　神戸學院大學

『佛國暦象編』卷五「詳修天眼法」
發表者　前原あやの　關西大學

一二月二二日　『佛國暦象編』卷五「詳修天眼法」（續）
發表者　小林博行　中部大學

『佛國暦象編』卷五「辨天眼之事誠實」
發表者　梅林誠爾　熊本大學

二〇一七年一月一九日　『佛國暦象編』卷五「七明人皆固有天眼之性」
發表者　小林博行　中部大學

「兩曜運旋略儀」について：佐田介石の「視實等象儀」との關係の檢討
發表者　梅林誠爾　熊本大學

『佛國暦象編』卷五「比較外典以釋如來藏性之義」
發表者　福島雅淳　神戸學院大學

二月一六日　『佛國暦象編』卷五「比較外典以釋如來藏性之義」（續）
發表者　福島雅淳　神戸學院大學

『佛國暦象編』卷五「明修天眼依地」
發表者　清水浩子　大正大學

三月　七日　『佛國暦象編』卷五「明修天眼有解行證之三」
發表者　上田眞啓　文學研究科

『佛國暦象編』卷五「明智自四」
發表者　宮島一彥　同志社大學

『破鏡』は『半鏡』に非ず
發表者　白雲　飛　大阪府立大學

北朝石窟寺院の研究　班長　岡村秀典

水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』（全一六卷三二册、一九五一～一九五六年）圖版解說の會讀を隔週の研究會で實施し、本年度は第一三洞から第一六洞までを檢討した。さらに水野清一・長廣敏雄『龍門石窟の研究』（座右寶刊行會、一九四一年）の中國語版を出版するのに合わせ、當研究所に所藏する龍門二十品（北魏造像記）の拓本を整理し、その會讀を隔週の研究會で實施した。その成果報告は二〇一七年度の『東方學報』に掲載する豫定である。また、當研究所と中國社會科學院考古研究所との共同編集により中國の科學出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分（第八～第一六卷）までは二〇一五年度に出版された。新たに執筆編集する第三期（第一七～二〇卷）の日本語版四卷九册は二〇一六年六月に刊行され、中國語版は二〇一七年度に刊行の豫定である。

四月一二日　雲岡石窟第十三洞
發表者　桑原正明　京都大學文學研究科

四月二六日　雲岡石窟第十三洞
發表者　桑原正明　京都大學文學研究科

五月一〇日　雲岡石窟第十三洞

五月一七日　雲岡中期における佛教圖像の變容　發表者　岡村秀典
人文研所藏の龍門石窟拓本とその整理について　發表者　安岡素子
五月二四日　雲岡石窟第十四洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
六月　七日　長樂王丘穆陵亮夫人尉遲氏造像記　發表者　岡村秀典
六月一四日　雲岡石窟第十四洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
六月二一日　一弗、比丘慧成（始平公）造像記　發表者　岡村秀典
六月二五日　雲岡石窟第十五洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
七月　五日　北海王元詳造像記　發表者　岡村秀典
七月一二日　雲岡石窟第十五洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
七月一九日　北海王國太妃高、解伯達造像記　發表者　岡村秀典
一〇月　四日　楊大眼造像記　發表者　稲本泰生
一〇月一一日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
一〇月一八日　比丘道匠造像記、鄭長猷造像記　發表者　稲本泰生
一〇月二五日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
一一月　一日　魏靈藏薛法紹造像記、晉東南部北朝石窟踏査報告　發表者　岡村秀典
一一月　八日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
一一月一五日　孫秋生等造像記　發表者　稲本泰生
一一月二二日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
一二月　六日　高樹解伯都等造像記、比丘惠感造像記　發表者　岡村秀典
一二月一三日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
二〇一七年一月一〇日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
一月一七日　太妃侯爲亡夫賀蘭汗、廣川王祖母太妃侯造像記　發表者　稲本泰生
一月二四日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
一月三一日　馬振拜等、比丘尼慈香慧政造像記　發表者　岡村秀典
二月　七日　齊郡王元祐造像記　發表者　稲本泰生
二月一四日　雲岡石窟第十六洞　發表者　向井佑介
京都府立大學
二月二一日　比丘法生、安定王元燮造像記　發表者　岡村秀典

前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア　班長　稲葉　穰

本研究班は、中央アジア、南アジア、西アジアのフロンティアとしての「歴史的アフガニスタン」およびその周邊において何が起きてきたのか、そこを越えて移動した人やモノはフロンティアを超えた先でいかに機能したのかを、文獻資料や出土資料をもとに檢討し、「前近代におけるグローバリズム」がいかなる實態を持っていたのかを明らかにすることを目的として計畫された。本年はアフガニスタンの周邊地域における多様な文化交流に關する研究報告と竝んで、九世紀にAbu Dulafによって執筆されたアラビア語の旅行記であるいわゆる『第一書簡』の會讀を終え、續く『第二書簡』會讀の準備を行った。會讀の成果は譯注としてまとめる豫定である。

四月一二日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 會讀
發表者　稲葉　穣
人文科學研究所

五月一三日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 會讀
發表者　中西龍也
人文科學研究所

五月二七日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 會讀
發表者　中西龍也
人文科學研究所

六月一〇日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 會讀
發表者　杉山雅樹
京都大學文學研究科

六月二四日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
シリアでのアラビア文字刻銘文資料調査の旅から―二〇〇六年三月のディマシク、ハマー、ハラブ―
發表者　井谷鋼造
京都大學文學研究科

七月　八日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Social Networks on the Silk Road: Social Network Analysis in Ancient History
發表者　Tomas Larsen Høisæter　人文科學研究所

七月二二日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
チャガタイ・ウルスとカラウナス＝ニクダリヤーン：ラシード・ウッディーンの記述の再檢討
發表者　川本正知
奈良學園大學

九月二三日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abū Dulaf Mis'al ibn Muhalhil, Risāla al-awwal 會讀
發表者　杉山雅樹
京都大學文學研究科

一〇月一四日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
カシミール史料におけるミールザー・ハイダル
發表者　小倉智史
日本學術振興會

一〇月二八日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
馬德新とイブン・アラビーの終末論―一九世紀における中國イスラームの新展開
發表者　中西龍也
人文科學研究所

一一月二五日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
「ラシード寫本ミニアチュール研究」科研インド調査報告―ランプル寫本とコルカタ寫本紹介
發表者　川本正知
奈良學園大學

一二月　九日　前近代ユーラシアにおけるフロ

ンティアとトランス・フロンティア
ブハラにおけるスンナ派・シーア派關係：イラン人の動向を中心に　發表者　木村　曉　京都外國語大學

二〇一七年　一月一三日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
ロシア帝政期南東コーカサスにおける裁判制度　發表者　鹽野崎信也　日本學術振興會

二月一〇日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
ザラフシャン川流域の遺跡―サマルカンド近郊のカフィル・カラ遺跡を中心に―　發表者　アリーシェール・ベグマトフ　京都大學大學院文學研究科

三月一〇日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abu Dulaf第二書簡會讀　發表者　稲葉　穣　人文科學研究所

三月二四日　前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア
Abu Dulaf第二書簡會讀　發表者　稲葉　穣　人文科學研究所

毛澤東に關する人文學的研究　班長　石川禎浩

初年度に蓄積した成果を生かしつつ、研究目的の達成にさらに近づくべく活動を進めた。活動形式は初年度同様、隔週開催の研究班例會を中心とし、まず報告者が一時間半程度の報告を行ったあと、コメンテーターが三〇分程度の批評を加え、その上で全體討論を實施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布していることもあり、活發な議論がなされたことは初年度同様であるが、本年度は初年度の成果をふまえた、より詳細で實證的な報告・討論が可能となった。また、コメンテーターとして班外部の複數の專門家を招聘しており、そのコメントを通じて、これまで以上により多角的に毛澤東に迫る視座を獲得しつつある。なお、アメリカの研究者に、最新の毛澤東研究について報告してもらう機會を設け、近年の日本ではあまり重視されていない英語圏における毛澤東研究の水準や課題について知見を得ることもできた。

四月一三日　毛澤東と文藝―『毛澤東文藝生涯』を讀む　發表者　瀨邊啓子　佛教大　コメンテーター　江田憲治　總合人間

五月一三日　毛澤東の題字と社會への浸透　發表者　韓　敏　國立民族學博物館　コメンテーター　瀨戸　宏　攝南大

五月二七日　中臺分斷下の戰後香港における毛澤東派―『盤古』を中心に　發表者　中村元哉　津田塾大　コメンテーター　森川裕貫

六月一〇日　毛澤東思想學院について　發表者　李　冬木　佛教大　發表者　楊　韜　佛教大　コメンテーター　安井三吉　神戸大（名譽教授）

六月二四日　毛澤東の知識人觀：統一戰線・資產階級との關連から　發表者　水羽信男　廣島大　コメンテーター　緒形　康　神戸大

九月二三日　毛澤東思想學院宣傳隊に關する考察―ドキュメンタリー映畫『夜明けの國』の上映活動を中心に　發表者　楊　韜　佛教大　コメンテーター　晏　妮　日本映畫大

一〇月二一日　毛澤東と五四　發表者　森川裕貫

コメンテーター　鈴木將久
一橋大

一一月　四日　China under Mao : A Revolution Derailed
發表者　Andrew Walder
スタンフォード大
コメンテーター　谷川眞一
神戸大

一一月一八日　毛澤東時代のシェイクスピア上演―上海青年話劇團『空騒ぎ』（一九六一年）を中心に
發表者　瀨戸宏　攝南大
コメンテーター　瀨邊啓子
佛教大

一二月　九日　〝階級闘爭、一抓就靈〟から〝要武嘛〟へ―毛澤東の闘爭戰略とその歸結（上）
發表者　岩井茂樹
コメンテーター　三品英憲
和歌山大

二〇一七年一月一三日　巴西會議（一九三五年九月）は開かれたのか？―長征史の一斷面―
發表者　緒形　康　神戸大
コメンテーター　田中　仁
大阪大

二月一〇日　毛澤東時代のナショナリズムとインターナショナリズム
發表者　小野寺史郎　埼玉大
コメンテーター　島田美和
慶應義塾大

二月二四日　石川禎浩『赤い星は如何にして昇ったか』合評會
コメンテーター　加々美光行
愛知大コメンテーター
田中　仁　大阪大
コメンテーター　三田剛史
明治大

樂しんで讀む戰國竹書―中國古代の基礎史料

班長　淺原達郎

二〇一五年度末には『清華大學藏戰國竹簡』第二冊の繫年を讀み終えそうな勢いだったのだが、最終章の第二十三章に手間どって、年度が變わっても、四月一五日から五月一三日まではそれを讀んでいた。そのあとやっと第三冊に入り、五月二〇日から七月二二日までは說命上中下、九月三〇日から一一月四日までは周公之琴舞、一一月四日から一二月一六日まではぜい良夫ひを讀んだ。繫年の最終章に時間を食ったのはうれしい誤算で、ここをていねいに讀むことによって、前章を讀むまでは思いもよらなかった作者の意圖が見えてきた。それにもとづいて、繫年の構圖を讀み解く一篇をまとめることができたのが大きな收穫である。この文章は樂しんで書くことができたし、また二年間の讀書で得た知見が自然と盛り込まれたのがうれしい。いまから思えば、神ってたと言ってもいいかもしれない。『日古』第二六號（四月一五日）、第二七號（九月三〇日）を發行した。第二六號には、上海博物館藏楚簡の競公瘧、孔子見季桓子についての讀書札記、清華大學藏簡・繫年にかかわる雜談を掲載した。第二七號には上海博物館藏楚簡の莊王既成・申公臣靈王、平王問鄭壽・平王與王子木についての讀書札記、また繫年にかかわる前述の論文を掲載した。バックナンバーまでふくめて、『日古』をどこか片隅にでも置いていただけないかとお願いしたところ、こころよく許してくださった人文科學研究所圖書室に感謝する。會合を開いて竹書を讀む形式をとっているが、限界が見えて來たので、來年度からは大膽に變更しようと思っている。

東方文化學院京都研究所舊藏漢籍の整理と研究

班長　矢木　毅

毎週水曜日、一四時より一六時まで、分館書庫にて開催（一二月以降は避寒のため、本館講義室にて開催）。前期は四月一三日より七月二七日まで（計一五回）。後期は一〇月一二日より二月一日まで（計一三回）。合計二八回の研究會を開催。毎回の檢討の成果を「典據情報」としてまとめ、「全國漢籍データベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開している。關連する成果として、『朝鮮本十選』と題する圖錄（センター資料叢刊第二十二册）を東アジア人文情報學研究センターより刊行した。また二〇一七年一月二〇日開催の合同シンポジウム「東方文化研究の記憶と遺産」に際し、企畫展示品の解題圖錄を作成した。

四月一三日　東方文化學院京都研究所漢籍目

錄
史部政書類軍政之屬
發表者　永田知之
四月二〇日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類軍政之屬
發表者　高井たかね
史部政書類法令之屬
發表者　古勝隆一
四月二七日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類軍政之屬
發表者　永田知之
史部政書類法令之屬
發表者　古勝隆一
五月一一日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類法令之屬
發表者　古勝隆一
五月一八日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類法令之屬
發表者　古勝隆一
發表者　クリスティアン・ウィッテルン
五月二五日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類法令之屬
發表者　クリスティアン・ウィッテルン
六月　一日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類法令之屬
發表者　クリスティアン・ウィッテルン
六月　八日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類法令之屬
發表者　クリスティアン・ウィッテルン
發表者　矢木　毅
六月一五日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　矢木　毅
六月二二日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄
史部政書類法令之屬
發表者　藤井律之
六月二九日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　藤井律之
七月　六日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　藤井律之
七月一三日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　土口史記
七月二〇日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　土口史記
七月二七日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　宮宅　潔
一〇月一二日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　宮宅　潔
一〇月一九日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　目黒杏子
一〇月二六日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　目黒杏子
一一月　二日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　目黒杏子
陶湘刊行書
發表者　高井たかね
一一月一六日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　陶湘刊行書
發表者　高井たかね
一一月三〇日　東方文化學院京都研究所漢籍目
錄　史部政書類法令之屬
發表者　高井たかね
一二月　七日　中江文庫　集部楚辭類
發表者　クリスティアン・ウィッテルン

集部別集類　發表者　古勝隆一
一二月一四日　中江文庫　集部別集類
發表者　古勝隆一
集部別集類
發表者　高井たかね
一二月二一日　中江文庫　集部別集類
發表者　高井たかね
集部別集類　發表者　土口史記
二〇一七年一月一一日
中江文庫　集部別集類
發表者　土口史記
發表者　永田知之
一月一八日　中江文庫　集部別集類
發表者　藤井律之
一月二五日　中江文庫　集部別集類
發表者　宮宅　潔
一月二五日　村本文庫　集部楚辭類・別集類
發表者　目黒杏子
二月　一日　村本文庫　集部別集類
發表者　矢木　毅

漢籍リポジトリの基礎的研究

班長　ウィッテルン　クリスティアン

今年度は全體の研究計畫について議論が行いました。幾つかの方法と方向性を檢討しました、そうして秋にそれを研究助成金の申請書にまとめました。漢籍リポジトリの發展と利用者數を增やすために內容の充實と正確性の向上を圖る。あらに利用者がリポジトリと接續するwwwサーバー、マンドクの編集ソフトと資料が提供するGitHubのクラウド・サービスの三者をつなぐワークフローについて議論しました。最後に具體的な課題としてはdistant readingの一つの方法であるテキスト・マイニングへのアプローチを檢討に向けて準備が始まりました。

四月二六日　研究班の趣旨について
五月一〇日　現在のwww.kanripo.orgの問題點
五月二四日　テキストの複數のバージョンの共同編集
七月二六日　DH二〇一六國際人文情報學會の報告とマンドク・ワークショップの準備について
九月二六日　逸文收集に必要な機能
一〇月一一日　Franco Moretti, Distant reading と Maps, Graphs and Trees について
一〇月二五日　研究助成金の申請書についての檢討
一一月二二日　引用文の見付方（一）：近い文書を近くに竝ぶ
一二月一三日　引用文の見付方（二）：bigram、接續確率と pointwise mutual information
二〇一七年一月一〇日
漢籍リポジトリ目錄の追加採錄について
一月二四日　漢籍リポジトリにおける個人やグループによる注釋の取扱いについて

秦代出土文字史料の研究

班長　宮宅　潔

里耶秦簡・嶽麓簡の概要を紹介し、その內容や研究狀況について意見を交換したうえで、項目七に示したように會讀を進めた。これと平行して、研究班の活動內容を紹介するHPを作成し、これを公開した（http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html）。

四月　八日　里耶秦簡概述
發表者　宮宅　潔
四月一五日　嶽麓簡概述　發表者　宮宅　潔
四月二二日　里耶秦簡會讀　⑧五一〇—⑧五四七
發表者　土口史記
五月　六日嶽麓秦簡會讀一—一二
發表者　宮宅　潔
五月一三日　里耶秦簡會讀⑧五四八～⑧六〇
〇　發表者　鷹取祐司
立命館大學
五月二〇日　嶽麓簡會讀一—一二
發表者　宮宅　潔
五月二七日　里耶秦簡會讀⑧五四八～⑧六〇
〇　發表者　鷹取祐司
立命館大學
六月　三日　嶽麓簡會讀一—一二
發表者　宮宅　潔
六月一〇日　里耶秦簡會讀⑧五四八～⑧六〇
〇　發表者　鷹取祐司
立命館大學
六月一七日　嶽麓簡會讀一三—二二

發表者　藤井律之

六月二四日　里耶秦簡會讀⑧五四八～⑧六〇

〇　發表者　鷹取祐司

立命館大學

七月　一日　嶽麓簡會讀一三－二二

發表者　藤井律之

七月　八日　里耶秦簡會讀⑧五四八～⑧六〇

〇　發表者　鷹取祐司

立命館大學

七月一五日　嶽麓簡會讀一三－二二

發表者　藤井律之

七月二二日　里耶秦簡會讀⑧五四八～⑧六〇

〇　發表者　鷹取祐司

立命館大學

七月二九日　嶽麓簡會讀一三－三二

發表者　野口　優

九月一六日　里耶秦簡會讀⑧六〇一～⑧六四

七　發表者　佐藤達郎

關西學院大學

九月二三日　嶽麓簡會讀一三－三二

發表者　野口　優

九月三〇日　里耶秦簡會讀⑧六〇一～⑧六四

七　發表者　佐藤達郎

關西學院大學

一〇月一四日　嶽麓簡會讀一三－三二

發表者　野口　優

一〇月二一日　里耶秦簡會讀⑧六〇一～⑧六四

七　發表者　佐藤達郎

關西學院大學

一〇月二八日　嶽麓簡會讀三三－四三

發表者　土口史記

一一月　四日　里耶秦簡會讀⑧六四八－⑧六五

七　發表者　目黒杏子

一一月一八日　嶽麓簡會讀三三－四三

發表者　土口史記

一一月二五日　里耶秦簡會讀⑧六四八－⑧六五

七　發表者　目黒杏子

一二月　二日　嶽麓簡三三－四三

發表者　土口史記

一二月　九日　里耶秦簡六五八－六七三

發表者　角谷常子　奈良大學

一二月一六日　嶽麓簡四四－五二

發表者　目黒杏子

二〇一七年一月一三日　里耶秦簡六五八－六七三

發表者　角谷常子　奈良大學

一月二七日　里耶秦簡⑧六七四－七〇二

發表者　宮宅　潔

二月一〇日　嶽麓簡四四－五二

發表者　目黒杏子

二月一七日　里耶秦簡⑧六七四－七〇二

發表者　宮宅　潔

二月二四日　嶽麓簡四四～五二

發表者　目黒杏子

三月　三日　里耶秦簡⑧六七四－七〇二

發表者　宮宅　潔

三月一〇日　嶽麓秦簡の執法について

發表者　土口史記

嶽麓簡五三～五九

發表者　伊藤　瞳　關西大學

三月一七日　里耶秦簡⑧七〇三～七三六

發表者　藤井　律之

班長　船山　徹

中國在家の教理と經典

中國の南朝佛教における在家の活動を具體的に知るため、今年は『廣弘明集』巻二八悔罪篇の會讀を集中的に行った。具體的には、「廣弘明集悔罪篇序」、「謝敕爲建涅槃懺啓」、「悔高慢文」、「懺悔文」、「群臣請隋陳武帝懺文」、「摩訶波若懺文」、「金剛波若懺文」、「勝天王般若懺文」、「妙法蓮華經懺文」、「金光明懺文」の會讀を終えた。今後、「大通方廣懺文」、「虚空藏菩薩懺文」、「方等陀羅尼齋懺文」、「藥師齋懺文」、「沙羅齋懺文」、「無礙會捨身懺文」の會讀を進めて巻二八の巻末まで讀了する豫定である。

四月一五日　研究班の趣旨説明

發表者　船山　徹

五月　六日　「廣弘明集悔罪篇序」（終南山釋氏）の譯注作成

發表者　船山　徹

五月二〇日　「謝敕爲建涅槃懺啓」（梁簡文）の譯注作成

發表者　船山　徹

五月二〇日　「悔高慢文」（梁簡文）の譯注作成

發表者　船山　徹

六月　三日　「懺悔文」（沈約）の譯注作成一

發表者　古勝　亮

（文學研究科）

六月一七日　「懺悔文」（沈約）の譯注作成二

七月　一日　發表者　桐原孝見（龍谷大學）
「群臣請隋陳武帝懺文」（江總文）の譯注作成
發表者　古勝隆一
九月三〇日　「摩訶波若懺文」（梁高祖）の譯注作成　發表者　趙ウニル（文學研究科）
一〇月　七日　「金剛波若懺文」（梁武帝）の譯注作成
發表者　中西久味（新潟大學）
一〇月二一日　「勝天王般若懺文」（陳宣帝）の譯注作成　發表者　中西龍也
一一月一八日　「妙法蓮華經懺文」（陳文帝）の譯注作成　發表者　船山　徹
一二月　二日　「金光明懺文」（陳文帝）の譯注作成　發表者　稲本泰生
二〇一七年　一月二〇日　「虚空藏菩薩懺文」（陳文帝）の譯注作成
發表者　上島　享（京大文學研究科）
二月　三日　「方等陀羅尼齋懺文」（陳文帝）の譯注作成　發表者　中西龍也
二月一七日　「大通方廣懺文」（陳文帝）の譯注作成　發表者　船山　徹

人文學研究部

環世界の人文學―生きもの・なりわい・わざ

班長　大浦康介

本年度は、班員各員による個別課題についての研究報告を中心に例會を開催するとともに、特に動物論に關わってゲスト・スピーカーを招きながら、環世界論および人間的主體の再檢討の議論をさらに發展させた。個別課題研究では、個人と外部環境（社會關係も含む）との關係性の檢討から主體を問い直す報告（立木、唐澤、田中雅一、松嶋、平野、田中祐理子）と、人間の集團的な生活様態と自然環境との間に生じる相關的な影響を歴史的・人類學的に分析する報告（坂口、篠原、橋本、井黒）とがなされ、個體生と集合性の兩面から主體概念をとらえ直し、環境とのかかわりを考察した。そのうえで、一二月に開催したミニ・シンポジウムでは、班長である大浦によって「對面性」をキーワードに環世界論における人間の獨自性が考察され、これをもとに共同研究班員およびシンポジウム參加者による全體討論を行い、研究班の活動を包括的に再檢討した。

現代／世界とは何か？―人文學の視點から

班長　山室信一、小關　隆

二〇一六年四月以降、二〇一七年一月二六日までに例會を一一回開催した（二〇一七年二月までにさらに二回の例會が豫定されている）。そのうち二回は、人文研アカデミーの一環として公開合評會の形態をとり、いずれも約五〇人の聽衆を得た。前年度の場合と同じく、「環世界の人文學」班とのジョイント開催とされた例會（二〇一六年四月二三日、さらに二〇一七年一月二七日豫定のもの）もあり、多くの分野にまたがる學際的な議論が實現された。また、一一月四～五日には、日本、韓國、中國、臺灣から研究者を招聘し、國際研究フォーラム「東アジアにおける歴史認識と歴史教育：人文社會科學の課題と可能性」を主催した。この企畫は二〇一五年度に共催した國際カンファレンス「歴史と記憶の政治とその紛爭」を引き繼ぐ性格のものであり、共同班長の山室が基調報告者を、小關がコメンテイターを務めた。報告者の内譯は、日本三人、韓國三人、中國二人、臺灣二人であった。二〇一七年度は最終年度であり、成果のとりまとめ作業が主たる課題となる。

ブラフマニズムとヒンドゥイズム―南アジアの社會と宗教の連續性と非連續性

班長　藤井正人

本研究では三年の研究期間を半年ごとの全六クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複數回の定例研究會とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度第一クールでは、ブラフマニズムからヒンドゥイズムへの「知」の變化と發展に關して複數の視點からの報告が行われ、一〇月に「古代インド思想における『知』の深化『知』の擴大」をテーマに第一回シンポジウムを開催した。第二クールでは、ブラフマニズムとヒンドゥイズムにおける「出家・苦行」を取り上げ、定例研究會で報告を行うとともに、年度末に「古代インドにおけるアセティシズムの諸相―禁欲・苦行・出家―」をテーマに第二回シンポジウムを

開催した。

アジアにおける人種主義の連鎖と轉換　班長　竹澤泰子

本年度に新しく立ち上げた本研究會は、同じく新規に採擇された科學研究費基盤（S）と連動させながら、アジアにおける人種主義を主眼に置いた共同研究を進めている。本年度は、一二月末までに六回の研究會を行い、三月末までには合計一一回の研究會を行う豫定である。内容としては、ゲノム研究の現狀や遺傳病の集團差、日本人の起源などをめぐる文理融合の共同研究や、海外からの報告者を交えての國際ワークショップ（公開）、さらに本年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解體する」（全三巻）の合評會（非公開）、國際共同研究の成果論文集 Trans-Pacific Japanese American Studies の執筆陣座談會（公開）などを開催した。これらの共同研究會を通して、次のさらなる課題を明確にし、共有することを目標とした。

近代天皇制と社會　班長　高木博志

「天皇」個人や「天皇像」、あるいは單なる政治過程でなく、天皇制を國家や社會とのかかわりで考える問題意識をもって、研究會を積み重ねた。全八回の研究會では、天皇制と社會をめぐって、神社・ファシズム・美術・顯彰活動など多様な問題について議論した。九月九日には洛西地域（上里の水利の記念碑・正法寺の忠魂堂など）における巡見をおこなった。さらに九月一二日には、京都大學が管理する清風荘（西園寺別邸）の見學をおこなうとともに、同地で天皇制と宗教の問題に關する二つの議題について研究會をおこなった。一〇月一五日には、國際シンポジウム「日清戰爭期の東アジア」をもち、東學農民軍に關する先行研究の見直し、東學農民戰爭に關する日本メディアの反應、及び同時期のアイヌに關する諸問題が議論された。このシンポジウムをもとに、『人文學報』の特集號をくむ豫定である。また、本研究班の活動をもとに、二〇一七年度には共同研究報告書『近代天皇制と社會』を刊行したい。

ウメサオ・スタディーズの射程　班長　田中雅一

本研究會は以下の三つの活動からなる。二と三は「みやこの學術資源プロジェクト」と連携して行っている。一）研究發表：梅棹の關心や業績は多岐にわたる。これらを整理し、主要なテクスト讀み、それに基づいて研究會を行う。二）紙媒體資料のデジタル化：具體的には、人文科學研究所に殘されている社會人類學講座の梅棹關係の書類を項目ごとに分類し、デジタル化し、整理している。デジタル化された文書のリストを作成、詳細な説明をつけた資料も作成中である（今年度終了豫定）。三）テープ資料のデジタル化：京大在籍中の梅棹忠夫の活動は多岐にわたるが、そのひとつが近衞ロンドという研究會・自主講義であった。當時の會合を記録していたオープンリールテープを、昨年も引き續き外注してデジタル化している。

「ヴァードゥーラ・シュラウタスートラ」研究　班長　井狩彌介、藤井正人

ヴァードゥーラ・シュラウタスートラの第八章（アグニチャヤナ祭）を研究對象にして、井狩（班長）が校訂テキストと譯注を作成し、研究會で報告するとともに、參加者全員によって檢討を行った。昨年度と同様に、テキストの會讀を中心に、補説的な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度、檢討したテキストの主題は、ウカー土器の製作、三層からなるイシュティ、犠牲祭に關する諸祭事などである。補説的な研究としては、ホートリ選任儀禮で表明されるプラヴァラ（祖先名）について報告を行った。

個人研究

東方學研究部

清代の文化と社會　井波　陵一
中國古代中世の法制　冨谷　至
中國科學の思想史的考察　武田　時昌
近代中國の財政と社會　岩井　茂樹
先秦時代の金文　淺原　達郎
古代中國の考古學研究　岡村　秀典
イスラーム東漸史の研究　稲葉　穣
インド・中國における佛教の學術と實踐　船山　徹
佛教研究知識ベース――禪佛教を例として　WITTERN, Christian
川西走廊の漢藏諸語の記述研究　池田　巧
中國共產黨史の研究　石川　禎浩
文字コード理論　安岡　孝一
秦漢時代の制度史　宮宅　潔

高麗官僚制度研究　矢木　毅
中國注釋學史研究　古勝　隆一
近代中國における社會經濟制度の變容　村上　衛
東アジア佛教美術史の研究　稲本　泰生
中國中世近世の文學理論　永田　知之
中國イスラームの研究　中西　龍也
文字定義情報に基づく文書表現系に關する研究　守岡　知彦
中國古代中世の官制史　藤井　律之
東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究　宮　紀子
中國家具とその使用に關する研究　高井たかね
中國古代における領域支配の研究　土口　史記
秦漢期國家儀禮の研究　目黒　杏子
中華民國時期における知識人と政治　森川　裕貫

人文學研究部

近代東アジアにおける日本の法と政治　山室　信一
南アジア、日本、ヨーロッパにおける暴力、セクシュアリティ、宗教　田中　雅一
文學理論の研究　大浦　康介
ヴェーダ文獻の生成と傳承の研究　藤井　正人
人種・エスニシティ論　竹澤　泰子
日本の工業化とアジア商人のネットワーク　籠谷　直人
近代天皇制の文化史的研究　高木　博志
一九世紀および二〇世紀ヨーロッパの音樂史　岡田　曉生
近代日本の藝術と西洋　高階繪里加
イギリス・アイルランド近現代史　小關　隆
近世ヨーロッパの歴史敘述と政治思想　王寺　賢太
一九世紀の日本社會　岩城　卓二
精神分析的知を思想史的に位置づける試み　立木　康介
近代トランスコーカサス（特にグルジア）における匪賊　伊藤　順二
アフリカと南アジアにおける宗教・環境・身體性に關する人類學的研究　石井　美保
東アジアにおける生命科學と「自然」　瀬戸口明久
農業史の再構築　藤原　辰史
フランス象徴主義と文學的モデルニテ　森本　淳生
島崎藤村その他の近代文學者の作品研究――リアリズム、メディア、帝國　HOLCA, Irina
近代日本民俗誌システムの研究　菊地　曉
近代西洋醫學發展史研究および身體論　田中祐理子
アフリカ系アメリカ人の宗教文化、教育、社會運動　小池　郁子
啓蒙と文學――アドルノ美學における「人間性」の位置づけ――　藤井　俊之
一九世紀および二〇世紀の演劇・映畫史　小川佐和子
近代朝鮮の民族運動と東アジア　小野　容照
在米日墨移民史の研究――環太平洋の視點から　德永　悠
皇室の土地所有に關する歴史的研究　池田さなえ

事業概況

・ジャズ・コンサート（人文研アカデミー）

二〇一六年五月三日
於　京都府立府民ホール　アルティ
すごいジャズには理由（わけ）がある
ピアノ：（ジャズ・ピアニスト）フィリップ・ストレンジ
話者：岡田　曉生

・ビブリオトーク（人文研セミナー）

二〇一六年五月一五日
於　熊本市立圖書館他
講師：（寫眞家）芥川　仁
講師：藤原　辰史

・連續セミナー（人文研アカデミー）

二〇一六年五月二六日、六月九日、三〇日
於　京都大學人文科學研究所本館四階大會議室
二〇一六年の論點――いま、私たちが考えるべきこと
五月二六日（木）　日中關係とメディア報道
講演者：（同志社大學大學院　グローバル・スタ

ディーズ研究科教授）加藤　千洋
司會：藤原　辰史

六月　九日（木）〝自民黨改憲草案〟を讀む
講演者：山室　信一
司會：岩城　卓二

六月三〇日（木）「ひとはなぜ戰爭をするのか」の人間學
講演者：立木　康介
講演者：田中祐理子
司會：小關　隆

・公開合評會（人文研アカデミー）

二〇一六年五月二八日、七月二三日
於　京都大學人文科學研究所本館一階セミナー室一

第一次世界大戰を考える

五月二八日（土）アフリカを活用する―フランス植民地からみた第一次世界大戰
（武藏大學人文學部）平野千果子
（東京外國語大學名譽教授）小川　了

七月二三日（土）ナイチンゲールの末裔たち―〈看護〉から讀みなおす
第一次世界大戰
（龍谷大學文學部）荒木　映子
（甲南大學文學部）井野瀨久美惠
小關　隆

・連續セミナー（人文研アカデミー）

二〇一六年六月一六日～七月一四日
於　京都大學東京オフィス

〈液狀化する親密圏〉人文研アカデミー一〇周年企畫@東京

六月一六日（木）ポリアモリーと子ども
講演者：（一橋大學大學院）深海　菊繪

六月二三日（木）「正しさらしきもの」を解放する〝ゆるさ〟
講演者：（音樂イベント・プロデューサー）雨宮　優

六月三〇日（木）現代日本の同性婚ニーズ
講演者：（辨護士、同性婚人權救濟辨護團員）森　あい

七月　七日（木）あたらしい「性の公共」をつくる
講演者：（ホワイトハンズ、「風テラス」主宰）坂爪　眞吾

七月一四日（木）結婚と賣春
講演者：田中　雅一

・夏期公開講座（人文研アカデミー）

二〇一六年七月一六日
於　京都大學人文科學研究所本館一階共通一講義室

名作再讀――いま讀んだらこんなに面白い一〇

出來の惡い正史――『晉書』を讀む
講師：藤井　律之

マルグリット・デュラス『愛人〈ラマン〉』をいま讀みなおす
講師：森本　淳生

冷徹な人間分析――『韓非子』を讀む
講師：冨谷　至

・京都レクチャー二〇一六

二〇一六年七月二〇日
於　京都大學人文科學研究所本館一階セミナー室一

Hasegawa Shigure: On War Cooperation in *Kagayaku*
講演者：（博報財團國際日本研究フェローシップ招聘研究員／受託研究員）Sreedevi Reddy

・國際シンポジウム

二〇一六年七月三一日
於　京都大學人文科學研究所本館一階セミナー室一

「人文學の危機」と文學研究――いま文學理論に何ができるか

谷崎潤一郎『文章讀本』の射程と可能性
講演者：（奈良教育大學）日高　佳紀

時間とアイデンティティー：安部公房を讀む
講演者：（ニューヨーク市立大學）リチャード・カリチマン

流動的なプロセスとしてのテキスト―讀む、讀み返す、讀み繼ぐ、書く、流通させる
講演者：（フランスINALCO）アンヌ・パイヤール＝坂井

ディスカッサント：（北海道大學）中村　三春

ディスカッサント：（關西學院大學）岩松　正洋
司會：大浦　康介

・高校生のための夏期セミナー

二〇一六年八月一〇日
於　京都大學人文科學研究所附屬東アジア人文情報學研究センター大會議室

漢字文化への誘い――第四回「知の聖地にようこそ」

ネットの海に漢字を浮かべて――漢字の人文情報學

講和者：守岡　知彦

・東アジア人文情報學研究センター講習會

二〇一六年度漢籍擔當職員講習會（初級）

第一日（一〇月三日）
オリエンテーション　稲葉　穰
漢籍について（四部分類概説を含む）　永田　知之
カードの取り方―漢籍整理の實踐　土口　史記

第二日（一〇月四日）
工具書について　高井たかね
漢籍關連サイトの利用（京都大學附屬圖書館學術支援課電子リソース掛）　大西　賢人
實習を始めるにあたって　梶浦　晉
漢籍目錄カード作成實習

第三日（一〇月五日）
目錄檢索とデータベース檢索　安岡　孝一
漢籍データ入力實習（一）

第四日（一〇月六日）
和刻本について（京都大學文學研究科教授）宇佐美文理
漢籍データ入力實習（二）

第五日（一〇月七日）
朝鮮本について　矢木　毅
實習解説　土口　史記
情報交換　安岡　孝一

二〇一六年度漢籍擔當職員講習會（中級）

第一日（一一月七日）
オリエンテーション　稲葉　穰
經部について　古勝　隆一
叢書部について　藤井　律之
叢書と漢籍データベース　安岡　孝一

第二日（一一月八日）
史部について　宮宅　潔
漢籍データ入力實習（一）

第三日（一一月九日）
子部について　中西　龍也
漢籍データ入力實習（二）

第四日（一一月一〇日）
集部について
（京都大學人間・環境學研究科教授）　道坂　昭廣
漢籍データ入力實習（三）

第五日（一一月一一日）
漢籍と情報處理　WITTERN, Christian
實習解説　土口　史記
情報交換　安岡　孝一

・國際シンポジウム

二〇一六年一〇月一五日
於　京都大學人文科學研究所本館四階大會議室

日清戰爭期の東アジア

東學農民戰爭における南接と北接の問題について
講演者：（圓光大學校教授）朴　孟洙

日清戰爭期『香川新報』の甲午農民戰爭報道
講演者：（愛媛大學講師）中川　未來

アイヌ民族近代史を問い直す――日清戰爭前後を中心に
講演者：（北海道大學名譽教授）井上　勝生
コメント：（佛教大學教授）原田　敬一
司會：高木　博志

・國際セミナー

二〇一六年一〇月二二日
於　京都大學人文科學研究所本館一階セミナー室一

トランスパシフィック日系アメリカ人研究

Asian American Culture on Stage: Transforming the View
講演者：（南カリフォルニア大學）ベリーナ・ハス・ヒューストン
コメンテーター：（神戸大學人文學研究科）アリーナ・アントン

The Japanese and the Origins of the Orientalist Buddy Film
講演者：（東京大學グローバルコミュニケーション研究センター）ブライアン・ロック
コメンテーター：（カールトン大學・

國際日本文化研究センター）マルシアーノ
司會：（學術振興會外國人特別研究員／
人文科學研究所外國人共同研究者）
ライル・デ・スーザ

・公開講演會

二〇一六年一〇月二七日
於　京都大學人文研本館一階セミナー室一
ミシェル・ジャルティ講演會
最新版ポール・ヴァレリー著作集をめぐって
(La nouvelle édition des *Œuvres* de Paul Valéry)
講演者：（パリ・ソルボンヌ大學教授）
ミシェル・ジャルティ
司會：森本　淳生

・ビブリオトーク（人文研セミナー）

二〇一六年一〇月二八日、一〇月二九日
一〇月二八日
於　熊本市立圖書館集會室
震災と再生のビブリオトーク
講師：（寫眞家）長野　良市
一〇月二九日
於　慶誠高校調理室
キッチン・トーク
話者：藤原　辰史

・國際ワークショップ（人文研アカデミー）

二〇一六年一一月一二日
於　京都大學人文科學研究所
本館一階セミナー室一
中川文庫開設記念　東アジアで一八世紀研究者で
あるりと—Hisayasu Nakagawa, L'Esprit des
Lu-mières en France et au Japon をめぐって
講演者：（ソウル國立大學
文學部教授）李　永睦
講演者：（京都大學文學
研究科教授）増田　眞
講演者：（新潟大學人文社會・
教育科學系教授）逸見　龍生
森本　淳生
司會：王寺　賢太

・京都レクチャー　二〇一六

二〇一六年一一月二二日
於　京都大學人文科學研究所
本館一階セミナー室一
Japan's Cultural Diplomacy in Asia in Historical Perspective
講演者：（ヘブライ大學准教授／
人文科學研究所招へい研究員）
OTMAZGIN, Nissim

・文學カフェ（人文研アカデミー）

二〇一六年一一月二五日
於　京都大學人文科學研究所
本館一階共通一講義室
人文研アカデミー文學カフェ「現代フィクション
の條件」
講師：（作家）圓城　塔
講師：（文筆家）千野　帽子
司會：（關西學院大學教授）久保　昭博
コメント：大浦　康介

・京都レクチャー　二〇一六

二〇一六年一二月七日
於　京都大學人文科學研究所本館
一階セミナー室一
Voices from the Fukushima nuclear village
講演者：（リベラシオン紙アジア特派員）
Arnaud Vaulerin

・京都レクチャー　二〇一六

二〇一六年一二月一四日
於　京都大學人文科學研究所本館
一階セミナー室一
Arts of Numbers: Fortune-telling Methods in Early Modern Japan
講演者：（パリ第七大學准教授）Matthias Hayek

・日獨ジョイントレクチャー

二〇一六年一二月二〇日
於　京都大學吉田國際交流會館南講義室二
明治時代、日本語は西洋文學をどのように受入て
きたか：〝Max und Moritz〟とローマ字譯
『Wampaku monogatari』を例に
講演者：（日本學術振興會外國人
招へい研究者／人文科學研究所招へい
外國人學者）AROKAY Judit
解說：イリナ・ホルカ

・合同シンポジウム二〇一七

二〇一七年一月二〇日
於　京都大學人文科學研究所附屬東アジア
人文情報學研究センター二階大會議室
東方文化研究の記憶と遺產
人文科學研究所所藏「華北交通寫眞」を例に

石川　禎浩
陶湘の復刊書とその「愛書」について
高井　たかね
東洋文化研究所小史
（東京大學）大木　康
東洋文化研究所のコレクション
（東京大學）眞鍋　佑子
東アジア學術院所藏資料の特徴と價値
（成均館大學）李　昤昊
東アジア學術院の成果と課題
（成均館大學）高　銀美
國學と東方學のあいだで――延世學風の傳統と現在
（延世大學）車　惠媛
延世大所藏古文獻の特徴
（延世大學）都　賢喆

・京都レクチャー　二〇一六

二〇一七年二月二七日
於　京都大學人文科學研究所本館一階セミナー室一
The Archaic in the Modern Orikuchi shinobu on Man'yo Japan and Ryukyus
講演者：（ナポリ大學・講師）Chiara Ghidini

・大浦康介教授・冨谷至教授・山室信一教授退職記念講演會

二〇一七年三月一三日
於　京都大學時計臺記念館百周年記念ホール
三醉人　人文問答
第一部「效用と無用のあいだ」
〈おしゃべり〉の效用
講演者：大浦　康介
辭書作成の效用――語義を求めて
講演者：冨谷　至
〈轉がる石〉の效用――三つの研究所を巡って
講演者：山室　信一
第二部「今こそ、人文學について語ろう」
鼎談
司會：武田　時昌

・第一二回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

二〇一七年三月一八日
於　一橋大學一橋講堂中會議場
漢籍の遙かな旅路―出版・流通・收藏の諸相―
司會：古勝　隆一
挨拶：稲葉　穣
モンゴル時代の書物の道
講演者：宮　紀子
明末の宣教師が出版した漢籍とキリシタン版
講演者：（京都大學文學研究科教授）中砂　明德
漢籍購入の旅――朝鮮後期知識人たちの中國旅行記をひもとく
講演者：矢木　毅

招へい研究員

。餘　欣　復旦大學歴史學系教授
中世術數學の形成と日本的展開
（文化生成研究客員部門）受入教員　武田教授
期間　四月二〇日～七月一九日
。JAMI, Catherine Florence The National Center for scientific Research, Research Director
梅文鼎の數學研究と和算への影響
（文化連關研究客員部門）受入教員　武田教授
期間　六月一九日～九月一八日
。OTMAZGIN, Nissim　ヘブライ大學人文學部准教授
地政學とソフトパワー：東南アジアにおける日本の文化政策の一〇〇年
（文化生成研究客員部門）受入教員　田中教授
期間　七月一一日～二〇一七年一月一〇日
。WAHLQUIST, Håkan　王立科學アカデミースウェン・ヘディン財團常務理事
スウェン・ヘディンと京都
（文化連關研究客員部門）受入教員　冨谷教授
期間　九月一四日～一二月一三日
。李　磊　華東師範大學歴史學系中國古代史教研室副教授
六朝時代の東アジア――中國王朝と日本・朝鮮との關係
（文化連關研究客員部門）受入教員　冨谷教授
期間　一二月一五日～二〇一七年三月一四日
。巫　仁恕　中央研究院近代史研究所研究員

一九世紀後半中國の地域的消費と社會變遷：同治期四川省巴縣を中心に
（文化生成研究客員部門）受入教員　村上准教授
期間　二〇一七年二月一日～二〇一七年四月三〇日

招へい外國人學者

。鄭　雅如　中央研究院歴史語言研究所助研究員
比較の視點からみた魏晉南北朝期皇后・皇太后の國家體制における位置：五禮を中心とした考察
受入教員　冨谷教授
期間　四月九日～四月二三日

。趙　立新　國立暨南國際大學歴史學系助理教授
石刻史料にみえる北朝宗室の官歴について
受入教員　冨谷教授
期間　四月九日～四月二三日

。堀口　典子　University of Tennessee, Associate Professor
食と記憶の言説――日本近代帝國をめぐって
受入教員　冨谷教授
期間　七月二五日～一二月三一日

。周　佳　浙江大學古籍研究所講師
宋代官銜制度研究―墓誌史料からの考察を中心に
受入教員　冨谷教授
期間　八月一日～二〇一七年三月三一日

。趙　晟佑　ソウル國立大學助教授
東アジア佛教にみえる末法思想の比較研究
受入教員　宮宅准教授
期間　八月一日～二〇一七年七月三一日

。張　利軍　東北師範大學歴史文化學院副教授
夏商周國家構造の考古學研究
受入教員　岡村教授
期間　九月二〇日～二〇一七年九月一九日

。張　忠煒　中國人民大學歴史系副教授
秦漢時代の法律認識―經學・讖緯・術數からみた―
受入教員　宮宅准教授
期間　一〇月一日～二〇一七年九月三〇日

。AROKAY, Judit　ハイデルベルグ大學日本學研究所教授
日本前近代の文字テクストのデジタル・マッピングとデジタル注釋
受入教員　大浦教授
期間　一一月一五日～二〇一七年一月一三日

。陳　偉　武漢大學歴史學院教授
秦代出土文字史料の研究受入教員　宮宅准教授
期間　一一月一七日～一二月四日

。劉　雅君　上海大學社會科學學院副教授
魏晉南北朝の外交史研究　受入教員　冨谷教授
期間　一二月一五日～二〇一七年三月一四日

。都　賢喆　延世大學校文科大學史學科教授
高麗末における明・日本との詩文交流の意義
受入教員　矢木教授
期間　二〇一七年三月一六日～二〇一八年二月二八日

外國人共同研究者

。Scherrmann, Sylke Ulrike
青島舊藏ドイツ語文獻中の法制關係資料の調査
受入教員　岩井教授
期間　二〇一二年四月一日～二〇一七年三月三一日（繼續）

。TAJAN, Nicolas Pierre
トラウマと文明――「傷」の歴史からみた人類
受入教員　立木准教授
期間　二〇一五年四月一日～二〇一七年三月三一日（繼續）

。鄭　琮樺　韓國映像資料院韓國映畫史研究所專任研究員・慶熙大學演劇映畫學科兼任教授
植民地近代の日本・朝鮮映畫交渉に關する歴史的研究
受入教員　高木教授
期間　二〇一四年一一月二四日～一一月二三日（繼續）

。李　周炫　ソウル國立大學歴史研究所ユソン奬學財團奬學生
秦漢時代における國家の市場管理
受入教員　宮宅准教授
期間　八月三〇日～二〇一七年五月三一日

。TAN Delfinn Sweimay　Nanyang Technological University PhD candidate
日本とシンガポールにおける鯉と裝飾魚養殖の科學史
受入教員　瀬戸口准教授
期間　九月一四日～二〇一七年一月一五日

。ライル・デ・スーザ　ロンドン大學バーベック准講師
海外日系人の文學とディアスポラ・アイデンティティ
受入教員　竹澤教授
期間　九月一日～二〇一八年八月三一日（繼

續）

。張　俐盈　中央研究院中國文哲研究所院級博士後研究員
明代詩學と文化傳播を通して見た李白
受入教員　永田准教授
期間　七月三〇日～九月三日

。PAPAZIAN, Frederic　フランス國立科學研究所センター科學史研究ラボ特任ソフトウェア技術者
『百科全書』デジタル共同批評校訂版（ENCRRE）構築のための技術開發
受入教員　王寺准教授
期間　二〇一七年二月二〇日～二〇一七年五月一三日

受託研究員

。石　立善　上海師範大學哲學學院教授
日本所藏漢籍古抄本に關する總合的研究
受入教員　古勝准教授
期間　二〇一七年三月一日～二〇一七年八月三一日

外國人研究生

。RUESCH, Markus
親鸞論～救濟論と生～に關する研究
受入教員　大浦教授
期間　二〇一五年四月一日～二〇一七年三月三一日（繼續）

。梁　鎮海
明清交替期の地域社會：自己文書の視角から
受入教員　岩井教授
期間　四月一日～二〇一八年三月三一日（繼續）

出版物

紀要

・東方學報　九一册（紀要第一八〇册）
二〇一六年一二月二〇日刊
・東洋學文獻類目二〇一四年度
二〇一七年二月一〇日刊
・人文學報　第一〇九號（紀要第一八〇册）
二〇一六年七月三〇日刊
・ZINBUN number 四七
二〇一七年三月刊
・人文研アカデミーの一〇年
二〇一七年三月一五日

研究報告その他

・所報人文　第六三號
二〇一六年六月三〇日刊
・東方學資料叢刊　第二二册　朝鮮本十選　矢木毅編
二〇一六年八月五日刊
・近現代中國における社會經濟制度の再編　村上衛
二〇一六年九月三〇日刊
・共同研究資料叢刊　第九號　京都大學人文科學研究所所藏　中川文庫貴重書目錄　王寺賢太
二〇一六年一一月一〇日刊
・センター研究年報二〇一六
二〇一六年一二月三一日
・東方文化研究の記憶と遺產：合同シンポジウム二〇一七
二〇一七年一月二〇日刊
・京大人文研セミナー〈六〉『目錄學に親しむ―漢籍を知る手引き』
二〇一七年三月刊行
・日本・中國・臺灣・香港・韓國の常用漢字と漢字コード　安岡孝一・安岡素子
二〇一七年三月一日刊
・古典解釋の東アジア的展開　京都大學人文科學研究所　藤井淳編
二〇一七年三月一七日刊
・フェティシズム研究　第三卷　侵犯する身體　田中雅一編
二〇一七年三月三一日刊